

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第4057777号
(P4057777)

(45) 発行日 平成20年3月5日(2008.3.5)

(24) 登録日 平成19年12月21日(2007.12.21)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 O N 2/28 (2006.01)

B 6 O N 2/48 (2006.01)

B 6 O N 2/28

B 6 O N 2/48

請求項の数 16 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2000-507549 (P2000-507549)	(73) 特許権者	500071337
(86) (22) 出願日	平成10年7月1日(1998.7.1)		コンコルト・キンダラウトシツツェ・ウン
(65) 公表番号	特表2001-514111 (P2001-514111A)		ト・キンダーメーベル・ゾヴィー・ゲレー
(43) 公表日	平成13年9月11日(2001.9.11)		テヘルシュテルングスゲゼルシャフト・ミ
(86) 国際出願番号	PCT/DE1998/001875		ット・ベシュレンクテル・ハフツング
(87) 国際公開番号	W01999/010197		ドイツ連邦共和国 デーエー 9 5 3 4 6
(87) 国際公開日	平成11年3月4日(1999.3.4)		シュタットシュタイナッハ インダスト
審査請求日	平成17年5月9日(2005.5.9)		リーシュトラーセ 2 5
(31) 優先権主張番号	297 14 903.2	(74) 代理人	100062236
(32) 優先日	平成9年8月21日(1997.8.21)		弁理士 山田 恒光
(33) 優先権主張国	ドイツ(DE)	(74) 代理人	100083057
			弁理士 大塚 誠一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 自動車用チャイルドシート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シート部（12）と、バックレスト（14）と、ヘッドサポート（22）とを有し、該ヘッドサポート（22）が2つのサイドサポート部（28）と2つのサイドサポート部（28）を連結する中央部（30）とを備えバックレスト（14）に高さ調節可能に配され、バックレスト（14）が外側にガイド装置を有してそれに沿ってヘッドサポート（22）を高さ調節可能に案内する、自動車用チャイルドシートにおいて、ヘッドサポート（22）中央部（30）がバックレスト（14）背部を囲い、ヘッドサポート（22）が互いに離間した2つのクランプ部材（32）を有し、クランプ部材（32）をバックレスト（14）のガイド装置に合わせて、ヘッドサポート（22）前面の中央部（30）と各サイドサポート部（28）との間の移行域に設けたことを特徴とする、自動車用チャイルドシート。

【請求項 2】

互いに平行に延びてガイド装置を形成し、ヘッドサポート（22）のクランプ部材（32）が確実施錠関係で係合する各ガイド溝（36）が、バックレスト（14）前面に2つの側端（34）に沿って設けられたことを特徴とする、請求項1に記載のチャイルドシート。

【請求項 3】

ヘッドサポート（22）に設けられ弾性保持部材（70）を有する捕捉装置（24）により、ヘッドサポート（22）をバックレスト（14）に固定できることを特徴とする、

請求項 1 又は請求項 2 に記載のチャイルドシート。

【請求項 4】

捕捉装置 (24) が、バックレスト (14) に対しヘッドサポート (22) を無段階で高さ調節するよう設けられたことを特徴とする、請求項 3 に記載のチャイルドシート。

【請求項 5】

捕捉装置 (24) が、バックレスト (14) に対しヘッドサポート (24) を段階的に高さ調節するよう設けられたことを特徴とする、請求項 3 に記載のチャイルドシート。

【請求項 6】

バックレスト (14) 背面 (40) が、上下方向に互いに離間し弾性保持部材 (70) に形を合わせた保持開口又は横溝 (26) を有することを特徴とする、請求項 5 に記載のチャイルドシート。

10

【請求項 7】

捕捉装置 (24) が、捕捉位置と解除位置との間を中央旋回軸 (64) を中心に旋回できる 2 アームレバー装置 (60) を有し、レバー装置 (60) の一方のレバーアーム (66) 端部に保持部材 (70) を設け、第 2 のレバーアーム (68) 端部に、ヘッドサポート (22) 中央部 (30) の孔 (44) を介して背部からアクセス可能・作動可能な作動ハンドル (46) を設け、旋回軸 (64) を形成する横リブ (62) を、レバー装置 (60) に一体に連結し、ヘッドサポート (22) 中央部 (30) 前面 (48) に作動ハンドル (46) 用の孔 (44) から離間して設けられた横溝 (50) 内に支持し、ばね素子 (86) をレバー装置 (60) とヘッドサポート (22) 中央部 (30) との間に設けたことを特徴とする、請求項 3 乃至 6 のいずれかに記載のチャイルドシート。

20

【請求項 8】

横リブ (62) を作動ハンドル (46) の横寸法に合わせた横寸法とし、側部連結脚 (74) によって作動ハンドル (46) に連結することにより、作動ハンドル (46)、横リブ (62) 及び 2 本の側部連結脚 (74) がフレーム (76) を構成し、横溝 (50) とヘッドサポート (22) 中央部 (30) の孔 (44) に開いた 2 つの側部脚溝 (78) とにより構成されるヘッドサポート (22) 中央部 (30) の突起 (80) を前記フレーム (76) が囲むことを特徴とする、請求項 7 に記載のチャイルドシート。

【請求項 9】

ヘッドサポート (22) 中央部 (30) に、横リブ (62) 用の横溝 (50) から離間した横開口 (52) と、横溝 (50) を横開口 (52) に連結する縦開口 (54) とを形成し、作動ハンドル (46) の解除位置で縦開口 (54) がレバー装置 (60) の第 1 のレバーアーム (66) の対応部分を、横開口 (52) が横棒 (72) により形成される保持部材 (70) を受けるようにしたことを特徴とする、請求項 7 又は請求項 8 に記載のチャイルドシート。

30

【請求項 10】

第 1 のレバーアーム (68) の、横リブ (62) と保持部材 (70) を形成する横棒 (72) との間に、ばね素子 (86) の一端部を固定するようブラインドホール (90) を形成したことを特徴とする、請求項 9 に記載のチャイルドシート。

【請求項 11】

40

縦開口 (54) に、ばね素子 (86) の第 2 の端部を固定するよう第 2 のブラインドホール (88) を設けたことを特徴とする、請求項 9 又は請求項 10 に記載のチャイルドシート。

【請求項 12】

2 アームレバー装置 (60) の反横リブ (62) 側の面に旋回軸摺動背面 (82) を形成したことを特徴とする、請求項 7 乃至 11 のいずれかに記載のチャイルドシート。

【請求項 13】

ヘッドサポート (22) 中央部 (30) 前面 (48) に、バックレスト (14) 背面 (40) に設けられた縦溝 (42) に突入する少なくとも 1 つのガイドリブ (56, 58) を設け、通常の捕捉位置においてはその縦溝 (42) に対して捕捉装置 (24) 保持部材

50

(70)を、ばね素子(86)により押圧することを特徴とする、請求項7乃至12のいずれかに記載のチャイルドシート。

【請求項14】

縦溝(42)に離間した横溝(26)を設け、通常の捕捉位置においてはその横溝(26)へと保持部材(70)をばね素子(86)により押入することを特徴とする、請求項13に記載のチャイルドシート。

【請求項15】

縦溝(42)上端を着脱可能な閉止素子により閉じることを特徴とする、請求項13又は請求項14に記載のチャイルドシート。

【請求項16】

ヘッドサポート(22)のサイドサポート部(28)に自動車の斜めベルト用のフック形開口(38)を形成したことを特徴とする、請求項1乃至15のいずれかに記載のチャイルドシート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

本発明は、シート部と、バックレストと、ヘッドサポートとを有し、該ヘッドサポートが2つのサイドサポート部及び2つのサイドサポート部を連結する中央部を備えバックレストに高さ調節可能に配された、自動車用チャイルドシートに関する。

【0002】

その種のチャイルドシートは、例えばドイツ実用新案公開公報第29510642号から公知である。この公知のチャイルドシートでは、棒状連結部材を挿入するようバックレストに開口を設けてあり、連結部材はヘッドサポート中央部から下方へ延びている。バックレストに開口があるのは機械的に弱いということを意味しており、この点で不利を呈する。そのようなチャイルドシートでは、シート部、バックレスト及びヘッドサポートは通常装飾用カバーで覆われている。ヘッドサポート中央部から下方へ延びる連結部材は通常上記のカバーで覆われていないので、ヘッドサポートがバックレストから引き上げられると、連結部材が見えてしまいシートが台無しになる。加えて、ヘッドサポートをバックレストから離すと、ヘッドサポートから下方に突出した棒状連結部材のバックレストに対する挿入深さが相応して浅くなるため、ヘッドサポートをバックレストから離すとバックレストとヘッドサポートとの機械的連結の強さが弱まってしまう。

【0003】

又、上記したのと同様のチャイルドシートが、例えばヨーロッパ公開公報第0326265号からも公知である。この公知のチャイルドシートでは、ヘッドサポートが、自動車用シートのヘッドサポートと同様に、例えば、ステッキ状に湾曲した2つの連結素子により高さ調節可能にバックレストに連結されている。

【0004】

ドイツ特許公報第420232号は高さ調節可能なヘッドサポートを備えたバックレストを有する自動車用チャイルドシートを開示している(図17参照)。この公知のチャイルドシートも、ヘッドサポートを同様に高く設定すると、ヘッドサポートとバックレストとの間にカバーのない域が残ってしまい、見栄えが台無しになると考えられ、不利を招いている。加えてこの場合、ヘッドサポートとバックレストとの連結の機械的強さも、ヘッドサポートを同様に高く調節した際には弱まってしまう、更に不利を呈する。

【0005】

本発明の目的は、上記の不利を招くことのない、即ち、ヘッドサポートのその時々の高さ設定には拘わりなくカバーがチャイルドシートを覆い、機械的強さがヘッドサポートのその時々の高さ設定とは無関係であり、簡単な手段を使用して、ヘッドサポートを所望の高さに調節できる、本明細書の冒頭部分で述べた種類のチャイルドシートを提供することである。

【0006】

その目的は、本明細書の冒頭部分で述べた種類のチャイルドシートの場合、ヘッドサポー

10

20

30

40

50

ト中央部がバックレスト背部を囲い、バックレストが外側にガイド装置を有してそれに沿ってヘッドサポートを高さ調節可能に案内する、本発明により達成される。

【0007】

従って、本発明によるチャイルドシートでは、ヘッドサポートが上下方向でバックレストより突出していないので、機械的強さがバックレスト自体により決まる。ヘッドサポート中央部がバックレスト背部を囲っているのも、チャイルドシートにバックレスト前面を覆う装飾用カバーを設けることができ有利である。又、ヘッドサポートにはヘッドサポートの2つのサイドサポート部とバックレストとを前面で覆うカバーを設けることができる。従って、バックレストに対するヘッドサポートのその時々の高さ設定には拘わりなく、本発明によるチャイルドシートでは、上記した種類の公知のチャイルドシートでは避けることのできないカバーのない域が容易に避けられる。

10

【0008】

本発明によれば、ヘッドサポートが互いに離間した2つのクランプ部材を有することができ、クランプ部材はバックレストのガイド装置に合わせてヘッドサポート前面の中央部と各サイドサポート部との間の移行域に配される。その場合、バックレストのガイド装置はバックレストの互いに離間した2つの側端により簡単に形成できるが、バックレスト前面に2つの側端に沿ってそれぞれガイド溝を設けてガイド装置を形成し、互いに平行に延びる各ガイド溝にヘッドサポートのクランプ部材を確実施錠関係で係合させることも可能である。この場合、少しの力を加えることにより遊びのない仕方でヘッドサポートがバックレスト上で高さ調節できるように、クランプ部材の形をバックレストのガイド装置に合わせる。ガイド溝はバックレストに直に設けることができるが、ガイド溝をバックレストとは別に造りバックレストに固定することもできることが認識される。

20

【0009】

ヘッドサポートに設けられ弾性保持部材を有する捕捉装置により、ヘッドサポートをバックレストに固定することができる。その場合、捕捉装置はバックレストに対しヘッドサポートを無段階に又は段階的に高さ調節するよう設けることができる。バックレストに対しヘッドサポートを段階的に高さ調節できる後者の場合、バックレスト背面に、上下方向に互いに離間し弾性保持部材に形を合わせた保持開口を設けることができる。その場合、保持開口及び弾性保持部材は、捕捉装置を操作することなくヘッドサポートを引き上げることはできるが、捕捉装置を操作することなくヘッドサポートをバックレスト下方に移動できないように、ラチェットのような形状としても、又ラチェットのように協働するようにしてもよい。

30

【0010】

捕捉装置が、捕捉位置と解除位置との間を中央旋回軸を中心に旋回できる2アームレバー装置を有し、レバー装置の一方のレバーアーム端部に保持部材を設け、第2のレバーアーム端部に、ヘッドサポート中央部の孔を介して背部からアクセス可能・作動可能な作動ハンドルを設け、旋回軸を形成する横リブを、レバー装置に一体に連結し、ヘッドサポート中央部前面に作動ハンドル用の孔から離間して設けられた横溝内に支持し、ばね素子をレバー装置とヘッドサポート中央部との間に設けることが望ましいと判明した。

【0011】

この場合、捕捉装置の旋回軸を形成する横リブは作動ハンドルの横寸法に合わせた横寸法とすることができ、側部連結脚により作動ハンドルに連結することができるので、作動ハンドル、横リブ及び2本の側部連結脚がフレームを構成し、横溝とヘッドサポート中央部の孔に開いた2つの側部脚溝とにより構成されるヘッドサポート中央部の突起を前記フレームが囲む。そのようなヘッドサポート中央部の上記突起を有する形状と前記突起を囲むフレームを有する捕捉装置の形状とにより、捕捉装置をヘッドサポート中央部に正確に位置決めすることが容易にできるようになる。これは組み立て及び取り付けの点で望ましい。加えて、ヘッドサポート中央部に横リブ用の横溝から離間した横開口と、横溝を横開口に連結する縦開口とを形成し、作動ハンドルの解除位置で縦開口がレバー装置の第1のレバーアームの対応部分を、横開口が横棒により形成される保持部材を受けようとするこ

40

50

とが望ましい。それによりヘッドサポート中央部をコンパクトな形状とすることができ、ヘッドサポートとバックレストとの間の正確な位置に保持部材を難なく配することができる。

【0012】

本発明によるチャイルドシートの捕捉装置の2アームレバー装置の第1のレバーアームには、旋回軸横リブと保持部材を形成する横棒との間に、ばね素子の一端部を固定するようブラインドホールを形成するのが好ましい。ばね素子は圧縮コイルばねであることが望ましい。圧縮コイルばねの一端部は前記ブラインドホールに固定する。その後捕捉装置を中央部に正確な装着関係で位置決めできる。次いでヘッドサポートをバックレストに取り付けることができる。

10

【0013】

本発明によれば、ヘッドサポート中央部の縦開口に、ばね素子の第2の端部を固定するよう設けた第2のブラインドホールを形成することができる。従って、それにより本発明のチャイルドシートの捕捉装置とヘッドサポート中央部との間で全体に亘り、ばね素子が正確に定められて固定される。

【0014】

チャイルドシートの組立状態で、即ちヘッドサポートをバックレストに取り付ける際に、捕捉装置を通常の停止位置又は捕捉位置から解除位置へ移動させることを、旋回軸を中心とした捕捉装置の旋回動により行い得るようになるため、2アームレバー装置の、旋回軸を形成する横リブとは反対側の面に、摺動背面を形成することが望ましい。前記摺動背面は支持手段を形成し、それを中心に作動ハンドルが捕捉位置から解除位置へと旋回する。この場合、同時にばね素子がヘッドサポート中央部と捕捉装置との間で機械的に押圧される。作動ハンドルを再び解除すると、ばね素子の押圧を軽減でき、その場合には捕捉装置が自動的に解除位置から捕捉位置へと再び移動する。

20

【0015】

ヘッドサポートがバックレストに対して横方向に傾動するのを防ぐため、ヘッドサポート中央部前面に、バックレスト背面に設けられた縦溝に突入する少なくとも1つのガイドリブを設けることができ、通常の捕捉位置においてはその縦溝に対して、捕捉装置保持部材を、ばね素子により押圧する。ヘッドサポート中央部前面が、互いに離間した2つのガイドリブを有し、捕捉装置をその2つのガイドリブ間に設けることが好ましい。

30

【0016】

縦溝に互いに離間した横溝を形成し、通常の捕捉位置においてはその横溝へと捕捉装置保持部材をばね素子により押入すれば、バックレストに対してヘッドサポートを段階的に移動させることができる。既述したように、上記横溝と捕捉装置の弾性配置された保持部材は、実際に、捕捉装置を操作することなくヘッドサポートを引き上げることはできるが、捕捉装置を捕捉位置から解除位置へと操作することなくヘッドサポートをバックレスト下方に移動できないように、ラチェット状の形状とすることができる。

【0017】

高さ調節時にヘッドサポートがバックレストから不意に外れてしまうのを防ぐため、バックレスト背面に設けた縦溝の上端を閉止素子により閉じることができる。該閉止素子は、例えば縦溝の上端に堅くネジ止めできる閉止栓とすることができる。

40

【0018】

本発明によるチャイルドシートの場合、サイドサポート部に自動車の斜めベルト用のフック形開口を形成することが望ましい。

【0019】

更なる詳細、特徴及び利点が、図示した如き本発明による自動車用チャイルドシートの実施の形態についての以下の記述から明らかである。

【0020】

図1はシート部12とシート部12から上方に延びるバックレスト14とを有する自動車用チャイルドシート10の実施の形態を示している。シート部12とバックレスト14と

50

は一体構成とすることも、二部構成として適宜連結させることもできる。シート部 12 はサイドサポート 16 を、バックレスト 14 はサイドサポート 18 を有している。バックレスト 14 には、サイドサポート 18 よりも上方に突出したガイド部 20 が設けられている。ガイド部 20 はバックレスト 14 に相応する部分を形成し、ガイド部 20 に沿ってヘッドサポート 22 が遊びなしに高さ調節可能である。ヘッドサポート 22 には捕捉装置 24 が設けられ、それによりその時々 of 所望の高さ位置にヘッドサポート 22 を捕捉することができる。

【0021】

図 1 はヘッドサポート 22 を段階的に高さ調節できるチャイルドシート 10 の構成を示している。その目的のため、バックレスト 14 のガイド部 20 背面には、互いに離間した保持又は拘束開口 26 を形成する。保持又は拘束開口 26 には、捕捉装置 22 の弾性又は拘束部材（図示せず）がラッチ係合できる。ヘッドサポート 22 がバックレスト 14 又はバックレスト 14 のガイド部 20 に対して無段階に高さ調節できるよう捕捉装置 24 を設計してもよいことが認識される。

10

【0022】

ヘッドサポート 22 は 2 つのサイドサポート部 28 と、2 つのサイドサポート部 28 を連結する中央部 30 とを有している。ヘッドサポート 22 中央部 30 がバックレスト 14 又はバックレスト 14 のガイド部 20 の背面を囲い、そこには上記の保持開口 26 も設けられている。

20

【0023】

捕捉装置 24 はヘッドサポート 22 中央部 30 に設けられ、以下に図 4 乃至 9 を参照して更に詳述する。

【0024】

図 2 及び 3 からわかるように、バックレスト 14 のガイド部 20 に沿ったヘッドサポート 22 の遊びなし高さ調節のために、ヘッドサポート 22 には互いに離間した 2 つの側部クランプ部材 32 が設けられており、該クランプ部材 32 はヘッドサポート前面の中央部 30 と各サイドサポート部 28 との間の移行域に設けられている。バックレスト 14 のガイド部 20 に対しヘッドサポート 22 を遊びなく直線案内するために、バックレスト 14 のガイド部 20 前面に、2 つの側端 34 に近接してそれぞれガイド溝 36 が形成されている。従って、2 つのガイド溝 36 がヘッドサポート 22 のガイド装置を形成する。図 2 及び図 3 からわかるようにガイド溝 36 が互いに平行に延び、ヘッドサポート 22 のクランプ部材 32 が確実施錠関係で、即ち遊びのない仕方でガイド溝 36 に係合しているため、ヘッドサポート 22 はバックレスト 14 のガイド部 20 に対して遊びなしに高さ調節可能である。これは図 3 に示されている。

30

【0025】

ヘッドサポート 22 のサイドサポート部 28 には、自動車専用三点安全ベルトの斜めベルトを受ける役目を果たすフック状の開口 38 が形成されている。

【0026】

シート部 12 及びバックレスト 14 には通常装飾的カバーが設けられ、そのカバーがバックレスト 14 のガイド部 20 の前面も、横はガイド溝 36 に至るまで覆っている。更なる装飾的カバーが、ガイド部 20 前面の 2 つのサイドサポート部 28 間のヘッドサポート 22 を覆っている。この構成により、ヘッドサポート 22 のその時々の高さ設定とは拘わりなく、チャイルドシート 10 にカバーのない域が存在しないようになる。これは装飾的な点でかなりの利益を呈する。更に、チャイルドシート 10 の非常に重要な利点は、形の安定性がヘッドサポート 22 のその時々の高さ設定とは完全に無関係である点である。

40

【0027】

図 4 は、バックレスト 14、ヘッドサポート 22 中央部 30、バックレスト 14 とヘッドサポート 22 との間の捕捉装置 24 を示す長手方向部分断面図である。ヘッドサポート 22 中央部 30 に面したバックレスト 14 背面 40 には、縦溝 42（図 1 も参照）と、縦溝 42 に交差する保持開口又は横溝 26 とが設けられている。

50

【0028】

ヘッドサポート22中央部30は孔44（図1も参照）を有しており、そこから作動ハンドル46を備えた捕捉装置24が突出し、作動ハンドル46で作動し得るようになっている。ヘッドサポート22中央部30の、バックレスト14に面した前面48には、孔44から離間して横溝50が設けられ、又、横溝50から離間して横開口52が設けられている。

【0029】

図5及び6からもわかるように、横開口52と横溝50とは縦開口54によって連結されている。

【0030】

孔44の上側でガイドリブ56がヘッドサポート22中央部30前面48から突出し、横開口52の下側で第2のガイドリブ58が前面48から突出している。ガイドリブ56及び58はバックレスト14背面の縦溝42内へ突入して、ヘッドサポート22をバックレスト14横方向に案内する役目を果たす。

【0031】

図7及び8から更に明らかにわかるように、捕捉装置24は旋回軸64が横リブ62により形成される2アームレバー装置60を有している。横リブ62は横溝50内に支持されている。レバー装置60は第1のレバーアーム66と第2のレバーアーム68を有しており、間には上記の旋回軸64が配されている。第1のレバーアーム66の反旋回軸64側の端部には、横棒72により形成される保持又は拘束部材70が設けられている。第2のレバーアーム68の反旋回軸64側の端部には、作動ハンドル46が設けられている。作動ハンドル46と捕捉装置24の横リブ62とは側部連結脚74（特に図8参照）により一体に連結されている。従って、作動ハンドル46、横リブ62及び2本の側部連結脚74はフレーム76を構成して、横溝50とヘッドサポート22中央部30の孔44に開いた2つの側部溝78とにより構成されるヘッドサポート22中央部30の突起80を前記フレームが囲む。従って、ヘッドサポート22及びバックレスト14の組み立て時に、正確な構成関係で捕捉装置24を突起80に容易に取り付けることができる。

【0032】

2アームレバー装置60の反横リブ62側には、湾曲した摺動背面82が形成されている。湾曲した摺動背面82は、組立状態で、縦溝42（図4参照）の底部84に当接しており、横リブ62と共に捕捉装置24の旋回軸64を形成する。

【0033】

ヘッドサポート22中央部30と2アームレバー装置60の第1のレバー64との間には圧縮コイルばねにより形成されたばね素子86が設けられている。ばね素子86を正確に構成位置決めするために、ヘッドサポート22中央部30の縦開口54域にブラインドホール88を設け、捕捉装置24の2アームレバー装置60の第1のレバーアーム66の、ヘッドサポート22中央部30側の面にブラインドホール90を設ける。ブラインドホール90は、組み立て時にばね素子86の対応する端部がブラインドホール90に固定保持されるような寸法となっている。

【0034】

図1乃至9のそれぞれにおいて同一の細部は同一の符号により識別しているので、それらの図面全てに関し全ての細部について記述する必要はない。

【図面の簡単な説明】

【図1】 チャイルドシートを上方から斜めに見た斜視側面図である。

【図2】 図1に示したチャイルドシートの正面図である。

【図3】 ヘッドサポートの、図2と同じ降下位置は太線で、上昇位置は細線で示した、図2同様のチャイルドシートの正面図である。

【図4】 バックレストの一部とヘッドサポート中央部の一部を、間に配した捕捉装置と共に示した長手方向断面図である。

【図5】 ヘッドサポート中央部の一部のみを示した、図4と同様の図である。

10

20

30

40

50

【図 6】 図 5 の V I - V I 矢視方向から見た、ヘッドサポート中央部の一部の図である。

【図 7】 ヘッドサポート中央部の一部を捕捉装置と組み合わせて示した、図 4 及び図 5 と同様の断面図である

【図 8】 図 7 の V I I I - V I I I 矢視方向から見た、ヘッドサポート中央部の一部を捕捉装置と組み合わせて示した図である。

【図 9】 バックレストの縦溝と互いに離間した横溝とを表わすバックレストの一部を示した図である。

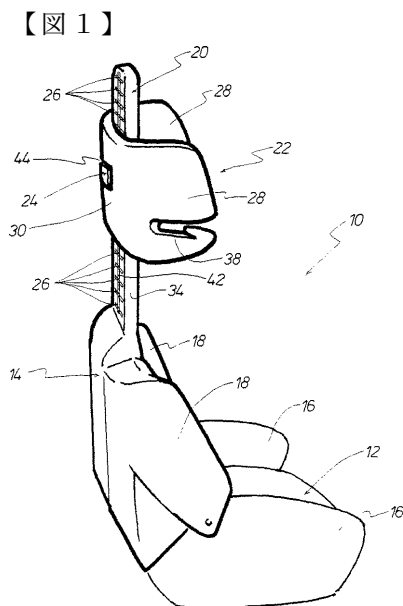


FIG.1

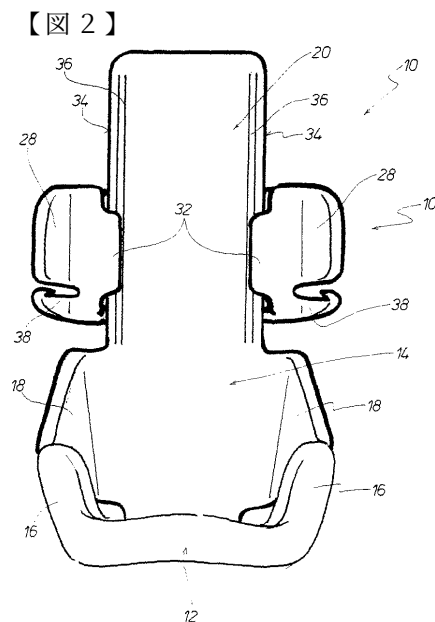


FIG.2

【図 3】

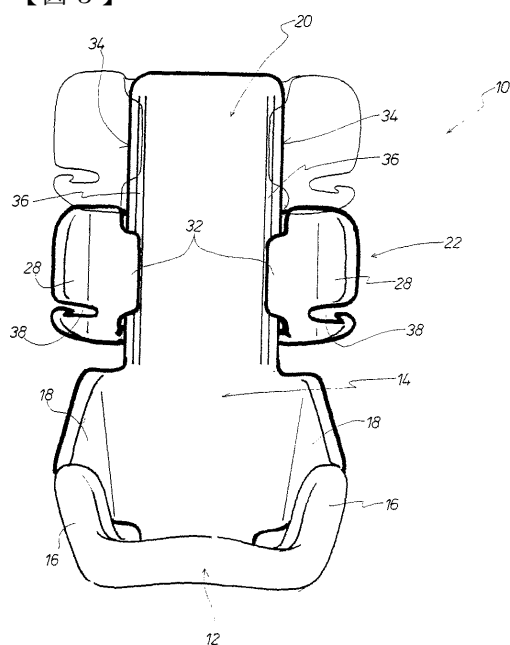


FIG. 3

【图 4】

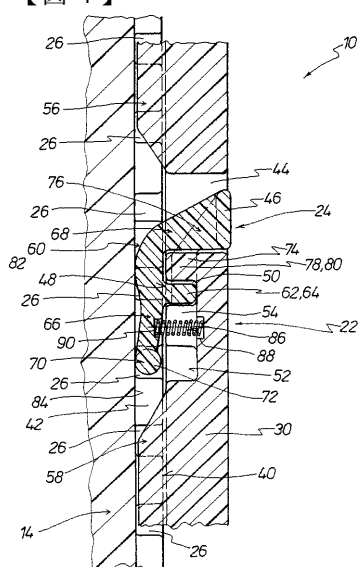


FIG.4

【図 5】

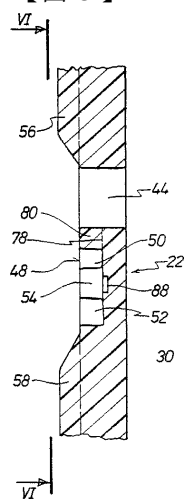


FIG.5

【図 6】

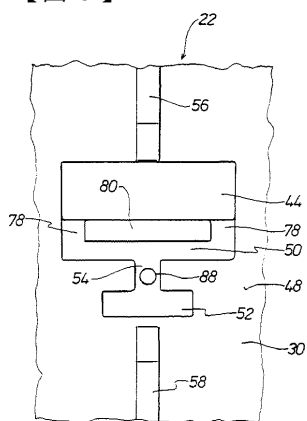
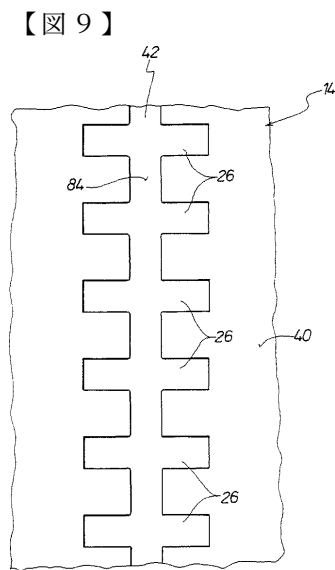
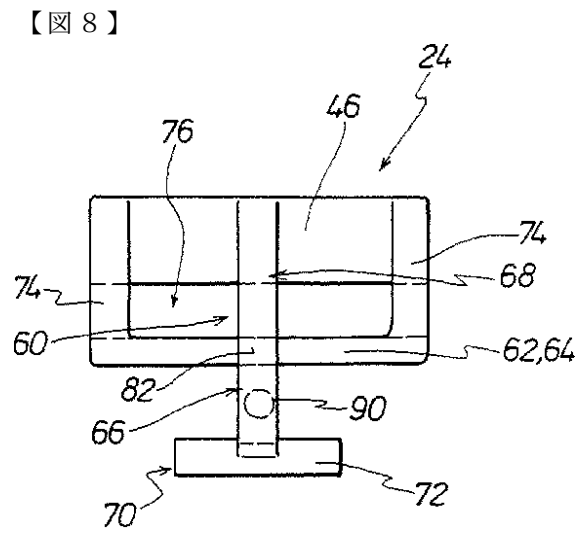
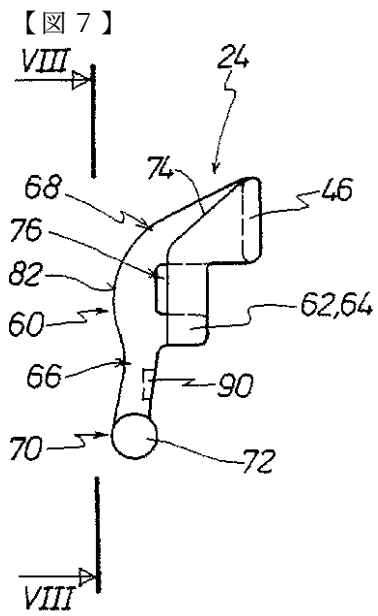


FIG. 6



フロントページの続き

- (72)発明者 ライトマイアー・ハーラルト
ドイツ連邦共和国 デーエー 9 5 3 4 6 シュタットシュタイナッハ ロースバッハライテ 4
(72)発明者 ケーニッヒ・ヴァルター
ドイツ連邦共和国 デーエー 7 2 5 2 5 ミュンジンゲン ハウプトシュトラッセ 2 0 3

審査官 藤井 真吾

- (56)参考文献 特開平 0 9 - 0 3 9 6 2 7 (J P, A)
特開平 0 2 - 0 0 6 2 4 0 (J P, A)
実開昭 5 3 - 1 3 4 3 3 2 (J P, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., D B名)
B60N 2/28
B60N 2/48